

自然体験あそび塾 チームわらべ

三重県中部に位置する松阪市の中で、飯南町は白猪山の麓しらいざぬに開けた自然豊かなところ。地域を流れる榎田川の清らかな水が四季折々の恵みをもたらし、深蒸し煎茶の松阪茶（飯南茶）や松阪牛などの産物が育まれています。これらの自然や産業を活かし、地元有志の「自然体験あそび塾 チームわらべ」が体験プログラムに取り組んでいます。



鈴木 由美さん(左)
代表の山本 齊さん(中央)
鳥本 均さん(右)

お問い合わせ

「自然体験あそび塾
チームわらべ」
松阪市飯南町粥見1768-1
TEL 090-3257-8665
(代表 山本 齊さん)

三重県内で活躍するグループを紹介する「いま、グループネット」。今回は、松阪市飯南町出身の仲間が集まり、地域でさまざまな自然体験や産業体験を行なっている「自然体験あそび塾 チームわらべ」の活動内容について、グループの代表である山本 齊さんやメンバーの鳥本 均さん、鈴木 由美さんにお話を伺いました。

——グループができたきっかけを教えてください。

山本：私が飯南町にある「リバーサイド茶倉」に勤めていた当時、集客企画として自然体験をはじめました。クヌギの広場で遊んだり、記念植樹をしたり、榎田

川の水について学んだりしました。子どもたちが自然の営みと大切さを肌で感じ、地域の伝統や産業にも興味を抱くようになってくれたらと思ったのです。退職してからも、地元有志6人で活動を続けています。グループ名は「わらべ」ですが、平均年齢は70歳。我々自身が童心に帰って、遊び心を持って地域のことを伝えています。

——具体的な活動内容はどのようだったのでしょうか。参加した人たちの声も聞かせてください。

山本：飯南茶や松阪牛、木工品など、地域に根付く産業を活用し、参加者の要望に合わせて、お茶摘みや農家見学、木工工作などをしてもらっています。飯南町

してくれず。それに芋掘りや落花生の収穫では、種として栽培するために持って帰りたいという子も。子どもたちが自然に対して関心を持つきっかけとなれば嬉しい限りです。5年前からは休耕田でフジバカマを育てています。

——渡り蝶の飛来地をめざしているのですね。

鳥本：アサギマダラは美しいだけでなく、個体によっては2000キロも飛行する生命力に心を打たれ、フジバカマを育て、希望する人に株分けもしています。アサギマダラの里と呼ばれるようフジバ



青々と緑茶香るお茶摘み体験※



製材の切れ端を使った木工工作※



フジバカマに集まるアサギマダラ※



イベントを盛り上げるキッチンカー

カマを栽培すれば、農村景観も維持できます。フジバカマは香りの良さから平安時代頃に匂い袋を持ち歩いていたそうですから、そういったものもチャレンジしてみたいですね。飯高地区の「波瀬駅」で、活動やアサギマダラを知ってもらおうと写真展も行いました。

——飯南町を出て活動することもあるのですか。

鈴木：体験の一つにうどん作りがあります。南伊勢町の民泊施設から声が掛かって、宿泊者を手打ちうどんでもてなしました。うどんの粉にはお茶の粉末や海藻

のヒロメなど地域の食材を混ぜています。喜んでもらっています。最近ではキッチンカーで出掛けることも多く、豚汁や薬草天ぷら、時にはポップコーンなど、作れるものは何でも作ります。

——自然の中には、遊びの要素と地域の歴史、先人の知識が詰まっています。体験を通して子どもたちに伝えている「自然体験あそび塾 チームわらべ」。好奇心が騒ぎ出し、自分たちが楽しめることを基本に活動を続け、子どもたちに託す未来のふるさとを思い描いています。

インタビュー…中村 元美

※印の写真は取材先から提供していただきました